

研究課題 (テーマ)	機械システム工学科・英語講習会のオンライン化 および効果的な学習プログラムの作成		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	機械システム工学科	准教授	宮本泰行
	機械システム工学科	准教授	棚橋満
	機械システム工学科	准教授	畠山友行
研究結果の概要			
<p>(内容)</p> <p>本学科では、昨年度まで13年にわたり、大学院必修科目である「高度実践英語」のフォローアップを目的として、英語教育プログラム(大学院GPでの取り組み)を実施してきた。この度、本予算によってコロナウィルス感染防止対策としてオンライン化し、内容の追加・改善等を行い、より高い効果が期待できる形の英語講習会として実施した。</p> <p>具体的な内容としては、<b>(a)これまでの内容を踏襲してさらに発展させたプレゼン・英会話力育成プログラム</b>として、一般英会話講習(昨年までの内容の継続、グルプレッスンと自己紹介作文の添削)に加え、新たに、<b>講義形式のプレゼン対策、スモールトーク、マンツーマンの即興レッスン(ネイティブスピーカー講師)</b>、という活用機会が多いコミュニケーション能力養成を重視したコンテンツも導入して、12月に実施した。</p> <p>さらに、<b>(b)TOEIC対策</b>に特化した講義とグルプレッスン形式のプログラム(日本人講師)を、3月に実施した。効果について、学生からのアンケート結果等で評価した。</p> <p>(成果)</p> <p><b>(a)</b>では、今回の予算とオンライン化の機会を活用し、ネイティブスピーカー講師が中心のグルプレッスンやマンツーマンレッスンが受講できる効果的な講習会プログラムを企画し、これを学生に対して提供した。学生へは積極的な参加を促すためのチラシ配布やアナウンス等、事前準備を徹底した。ただ、参加者は計7名(学部生含む)と伸び悩んだ。年末という研究が忙しくなる時期での開講が参加敬遠の原因と考えられる。ネイティブとの対話への苦手意識がハードルとなっていたとの意見も、聞かれた。</p> <p>一方、<b>(b)</b>については、<b>参加者の延べ人数29名と大幅増</b>となり、アンケート結果からも、概ね好評であった。実施時期(卒研・修士論文中間発表終了後の3月中旬)、および学生に対するメリットの見える化を図ったコンテンツ(近視眼的ではあるが、学生のキャリア形成に直接的に役立つ検定試験対策)の提供などが、効を奏したと考えられる。</p> <p>さらに、院GPで2009年に整備したDVD教材のリニューアルも、併せて実施できた。これまで一定数のニーズがあり、学習意欲の高い学生の活用が期待できる。</p>			
今後の展開			
<p><b>(a)</b>の内容について、今回初めて実施したネイティブスピーカーとのスモールトークやマンツーマンの即興レッスンは、参加者自身の発話能力レベルが実感でき、フィードバックとして、文章化と添削返却も付属する。オンライン上でのみ実施が可能であり、極めて有意義なコンテンツである。後期博士課程学生や研究室単位での活用など、ニーズに応じた適用を、検討したい。</p> <p>一方、<b>(b)</b>で実施したTOEIC対策は参加学生の大幅な増加が見込める上、学生のキャリア形成支援の意義も大きいことから、全員参加型での継続が、推奨される。DVD教材の活用も推進する。</p>			